

# 絶望を希望へ「おやこを照らす光」

## ゆずりは(認可保育園・児童発達支援事業所)



2019年に「おやこ支援室ゆずりは」を開所して以来、今年で8年目を迎える「ゆずりは」は認可保育園と児童発達支援事業所・放課後等デイサービスの機能を備えた全国的にも珍しい施設へと成長してきました。この施設の代表を務めるのが太田恵理子さんです。

太田さんは「先天性水頭症で生まれた息子と自分にとって必要なことを試行錯誤しながら実現してきました」と話します。

「ゆずりは」のwebサイトにはその創業の想いが綴られています。(以下抜粋)「息子の病気がわかったのは妊娠6か月。すぐには現実を受け入れられず、自分を責める日々が続きました。(中略)NICUで懸命に生きる息子を見て“生きてくればそれでいい”と感じ、少しずつ現実を受け入れ始めました。ただ、当時0歳から受け入れ可能な児童発達支援事業所は数少なく、小児リハビリ・療育が受けられる場所を見つけるのも、母子同伴で通うのも簡単なことではありませんでした。息子は体の中に管が通っていることから保育園には入園できず、私は離職せざるを得なかったのです。息子も私も病気がゆえに辛い経験をしてきたため『障害児を預かってくれる施設がないなら、自分で創る!』と起業を決意しました。」



株式会社ハビリテ  
代表取締役 太田恵理子さん

そして、太田さんは同じ境遇の保護者と子どもたちのためにリハビリや療育を身近に受けることができる「おやこ支援室ゆずりは・ゆずりは保育園・ゆずりはplus・放課後等デイサービス・訪問看護ステーション」を創り上げました。

### ゆずりはの療育

園児の約半数が障害や特性のある子どもたちが通っている「ゆずりは保育園」では、県内でも少ないインクルーシブ保育を取り入れています。

障害の有無、年齢、性別、国籍に関わらず、一緒に過ごす環境なので、一人ひとりの個性や特徴を受け入れられる豊かな心を育てています。

「ゆずりはplus」では、保育士・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理指導担当職員が専門的な知識と技術を用いて、リハビリから医療的ケアまでの充実した療育を行います。スタッフは

「ゆずりは保育園」と「ゆずりはplus」を行き来して、子どもたちの成長を見守っています。

「ゆずりは」で育った子どもたちの成長をずっと支えていきたいという思いから、6歳～18歳までの重度心身障害児を受け入れる放課後等デイサービス「ゆずりはcare step」も四月から開始しています。

太田さんは「保育・リハビリ・看護の3つの条件がそろい、安心して子どもを預けることができれば、障害児が生まれたことによるさまざまな不安を無くし、家族が将来を見通すことができます。わたしたち『ゆずりは』の使命は、その絶望や不安を安心と希望に変えることです」と力強く語ってくれました。

.....  
児童発達支援事業所ゆずりは  
徳島市中島田町4丁目53-1  
電話088-679-7535  
受付時間 9:00 ~ 17:00  
(土日祝除く)





ゆずりは

利用者の声



## 保育と療育の両面でバランス良く支援してくれます

北原栄子さん・叶(かなえ)ちゃん5歳

叶は発達障害の疑いがあるので、保育をしてもらいながら療育もしてくれる「ゆずりは保育園」と「ゆずりはplus」でお世話になっています。

言語聴覚士や作業療法士の先生に叶の言葉の訓練や手先の訓練をしてもらっています。子どもの状態をそのまま受け止めてくれるのと同時に、専門的に発達の状態を保育

と療育の両面でバランスよく見て対応してくれています。

「ゆずりは保育園」のインクルーシブな環境では、叶もできないことがあっても自分を否定することもなく、お友達と一緒にすごしながら成長できています。参観日や行事ではいろいろな子どもたちの成長も見ることができ、今ある幸せがあたりまえでないことに気づかされ「ゆずりは保育園」の温かい環境に感謝し、感動しています。



## 友達を思いやることができるようになりました

原田明恵さん・泰幸(だいご)くん3歳

泰幸が生まれてからダウン症だと診断され、自宅でこの子を育てることができるのか不安になりました。それから保健師さんや障害児のコミュニティー、知り合いなどから泰幸を受け入れてくれる施設はないかと、情報を集めました。そのときに「ゆずりは保育園」を知り、すぐに申し込みをしました。

ここでは保育園に通園しながらでも「ゆずりは

plus」の専門スタッフからダウン症の特性に合った発達支援を受けることができます。そのおかげで体の使い方やコミュニケーション能力も上がり、園の友達を思いやることもできるようになるまで成長してくれました。もし家庭だけで育児をしていたら泰幸がここまでのびのびと育つことはできなかったと「ゆずりは保育園」に感謝しています。



## 卒園後も切れ目のない支援があるので安心です

住友祥子さん・瑛斗(えいと)くん5歳

瑛斗は生まれた時に循環器の疾患があり病院のNICUで約1か月半過ごし、退院してから訪問看護と「ゆずりはplus」を利用して医療的ケアを受けていました。その後手術が成功して酸素マスクがはずれ「ゆずりは保育園」に移ることができました。

園に入る前、瑛斗は「ゆずりはplus」の教室

から園の子どもたちが遊んでいる姿を見ているだけでも楽しそうでした。園に通えるようになって、わたしが送り届け、帰る時に「ママ行かんといて」って言われたことはありません。

来年卒園になるので小学校の支援学級や、瑛斗に合った学校生活、放課後等デイサービスについてスタッフの方からアドバイスをもらい、瑛斗の将来を考えるきっかけを頂きました。